コミュニケーションの大切さ
江津市立江東中学校　三年　　中嶋奏太

　僕は広島ジュニアウィンドオーケストラで演奏したくて応募し、今年の四月から受講できるようになりました。僕はそれまでラッパを吹くことが楽しかったけれど、大勢で合奏したいという気持ちの変化がありました。そのきっかけは、奈良の音楽の先生が江津に来てくださった、二月にあった合同練習です。とても楽しい練習でした。ソロパートをしたので、緊張は大きく不安な気持ちも少しありました。やり切った後は、まだやりたいという気持ちでした。しかし、僕の学校の吹奏楽部は部員が三名で、大勢での演奏は難しい状況です。そこで、ジュニアウィンドオーケストラで、本気でやってみようと思いました。
　島根県から来たのはおそらく僕だけで、広島県や山口県の中学生や高校生がほとんどでした。コミュニケーションが苦手な僕は、初めての顔合わせの時、
「はい。」
「ああ。」
としか話してないと思います。完全にまわりの雰囲気にのまれてしまっていました。そして、中には友達どうしで参加している人もいて、その中に入ってうまくやっていけるか不安がとても大きくなりました。初日は、島根県に帰るまでがとても長く、疲れました。
　二度目の練習は、親の都合で練習会場の大学まで自分一人で出かけました。バスを降りてから大学まで十五分で着く予定が、地図の見方に苦戦し、三十分近くかかってしまいました。練習が始まると、生徒のみんなの雰囲気がよそよそしいので、先生方が、
「ラインとか連絡とりあってるの。」
「友達できたの。」
などと質問されました。僕にも、
「奏太君、どうやって来たの。」
と質問されました。僕は、もじもじしながら
「バスです。でも、バスを降りてからここまで三十分かかって歩いてきました。」
と答えました。みんなが驚いて、大笑いになりました。
「奏太君は、コミュニケーション能力とマップを見る勉強が必要だね。」
と先生に言われました。それがきっかけで、少しずつ先生や他の生徒たちとうちとけることができました。あの場で先生が話しかけてくださらなかったら、
「ああ。」
「はい。」
だけの会話で、その日も終わっていたと思います。
　イベントで広島カープの試合前に演奏する機会がありました。球場で演奏する意味を調べてみて、驚きました。すごく重要なことだとわかりました。何度も曲を聴いて、練習しました。合わせ練習の時も思ったように吹けず、気持ちが沈んだまま帰ることもありました。

本番は、やるしかないと気持ちを切り替えて臨みました。演奏が終わると、スタジアム全体から大拍手がありました。それほどの拍手をもらったことが無かったので、とてもうれしく思いました。そして、演奏後、打楽器やホルンのメンバーと仲良くなりました。別々の学校・学年だけど話してみると、音楽が好きで、おもしろくて、やさしい人ばかりでした。九月からの練習で会えることが、楽しみになりました。

僕は演奏がしたくて、広島に行くことにしました。けれど、上手になったり、合奏をしたりするには、自分のコミュニケーションの力を上げることが必要だと気付きました。暗いトーンで話すことをやめること、あいさつや返事をはっきりし感じ良くすること、相手の話をきちんと最後まで聞くこと、わからないことは、グーグルではなく人にきくことをがんばっていこうと決心しました。そして、このことは、音楽だけではなく日常生活でもそうしたいと思いました。人を思いやる気持ちをもってコミュニケーションをとることで音楽にも人を楽しませたいという気持ちがプラスできると思いました。気付いたことを忘れずに、吹奏楽の練習をこれからも続けていきたいです。